

3月の園だより

令和5年2月28日

杉並区立西荻北子供園

園長 石床 美穂子

一人ひとりの力がみんなの中で生きる～主体性あつての協同性～

園長 石床 美穂子

子どもたちが植えた園庭のチューリップの芽が少しずつ伸びてきて、春が近いことを感じます。

去る2月18日(土)に4歳児くま組と5歳児ぞう組の音楽会が開かれました。子供園では、季節の歌やいろいろな曲調の歌を日常的に歌っていますので、子どもたちは歌うことが大好きです。また、楽器にも興味をもち、遊びの中や学級の活動で繰り返し楽しんだり、部分的に音が揃う心地よさを感じたりしてきました。当日は、保護者の皆様のおたのしみなざしの中、くま組は楽しそうに、ぞう組は堂々と歌や合奏を披露しました。“すてきだったよ”ということが伝わる保護者の皆様のおたくさんの拍手は子どもたちの心に届き、とても嬉しそうでした。ありがとうございました。

音楽会後に各クラス、保護者会を行いました。(3歳児うさぎ組は2月4日の子ども会の日には保護者会を行いました。)子どもたちの園生活の様子を担当が作成したパワーポイントを使って、お話ししました。

子どもたちが、遊びの中で様々なことを考え、自分の力を使って実現させていたり、友達や先生との関わりの中で一緒に過ごす楽しさを感じたりしていることが分かったという感想をいただきました。

ぞう組は、音楽会の一週間ほど前に「ぞうぐみゆうえんち」という遊び場を開き、うさぎ組とくま組を招待しました。この「ぞうぐみゆうえんち」は、もともと園の行事として予定していたものではなく、子どもたちのそれぞれの遊びが繋がって形になったものです。“ホールにアスレチックを作ろう”と5人で始めた遊びが、作っているうちに「うさぎ組さんとくま組さんに遊ばせてあげたい。」というめあてになり、自分たちより小さい子が遊びやすいように、遊具や用具を考え合いながら組み合わせて作っていききました。また、楽しい雰囲気になるように海のイメージで飾りをつけて、「いつ呼んであげようか。」と楽しみにしながら進めていました。また、ポケモンと鳥を作っていた子どもたちもホールに場を作り、そこで作ったものを見たり遊んだりできるようにしたいというめあてをもち、アスレチックの隣の作り始めました。

その時、ぞう組では、2～4人くらいで、いくつかの遊びが展開されていました。担任の先生は、その遊びも含めて、みんなで何か形にできないかと考え“今進んでいること”を遊びニュースで子どもたちが伝え合えるようにしました。そして、それぞれが楽しんでいることを生かしていくことになり「ぞうぐみゆうえんち」と子どもたちが名付け、学級みんなの活動となりました。自分たちが遊びで楽しんでできて得意な、独楽回し、的当て、ボール入れ、ダンス、ボーリング等も加わり、ぞう組保育室やテラスも使うことになりました。ゆうえんちが開くまで数日でしたが、同じ場の友達と一緒に、必要な物の準備をしたり、試行錯誤しながら場を作ったりしました。自分たちが楽しんでいることを小さい子にも楽しんでもらうにはどうしたらいいかということをお話し合うことも多くありました。今まで、子どもたちが興味・関心をもって主体的に遊んでいた中で培われた力が生かされていきました。当日、「ぞうぐみゆうえんち」には、笑顔がいっぱいいて、楽しい時間を過ごすことができました。うさぎ組、くま組にやさしく接するぞう組の子どもたち、そして、ぞう組を憧れのまなざしで見えるうさぎ組とくま組の子どもたちとても素敵な光景でした。こういったことが、西荻北子供園の文化として継承されていくのだと思います。

西荻北子供園では、子どもたちの“やりたい”思いを大切にしてい、主体性を支える保育を目指しています。今回のぞう組の子どもたちの姿から、一人ひとりの主体的な姿があるからこそ、友達との遊びの中で学んだことを生かすことができ、協同性に繋がっていくのだということを改めて感じました。

子どもたちの様子と今月のねらい

3歳児 うさぎ組

空き箱を組み合わせて、自分なりに製作をすることを楽しんでいます。時には望遠鏡などを作った同じ物を持ち、一緒に遊ぶこともあります。また、くま組やそう組の音楽会を見せてもらい、その後学級の活動で曲に合わせて「ヌヌ」を鳴らすことを楽しみました。遊びの中でも嬉しそうに手に取り、体を揺らして音を鳴らしたり、曲を感じて色々な鳴らし方をしたりしています。音楽会をきっかけに、子どもたちはより他学年への憧れをもち始めています。進級に向け、自分で行うことができることをたくさん認めていきながら過ごしていきたいと思います。

<今月のねらい>

○やりたいことを言葉や動きで伝えながら、他の幼児との関わりを楽しむ。

○進級することに期待感をもち、身の回りのことを自分で行おうとする。

○春の訪れを感じ、身近な自然の変化に気付いたり、感じたことを保育者や友達に伝えたりする。

<家庭との連携>

子どもたちは、進級することを楽しみにし、大きくなることに喜びを感じ始めています。自分で行うことができることは「先生、もうできたよ！ほら！」と自分でやるうとする姿が増えています。ご家庭でも、身の回りのこと等を再確認し、進級することを楽しみにできる言葉を掛けながら、できることを増やしていきましょう。

4歳児 くま組

先日の音楽会では、はりきって行事に取り組んだり、学級の友達と一緒に曲に合わせて楽器を鳴らす楽しさを感じたりしていました。自分で選ぶ遊びの中でも、時に思いをぶつけ合いながらも、友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じています。3月は、進級に向けてそう組から当番の引継ぎや、お別れ会に向けての取り組みが始まります。くま組として過ごす最後の1か月は進級への期待を膨らませながら、元気に楽しく過ごしていきたいと思います。

<今月のねらい>

○友達と互いに思いを伝えたり受け止めたりして、一緒に遊ぶ楽しさを味わう。

○友達とやりとりを楽しみながら、自分たちで遊びを進めていく楽しさや、友達とのつながりを感じる。

○保育者や友達と一緒に学級の活動にはりきって取り組む中で、進級への期待をもちつ。

<家庭との連携>

くま組で過ごすのも残り1か月です。保護者会でもお伝えしましたが、そう組になると名札の付け外しや弁当包み等、自分で行うことが増えていきます。ご家庭でも、毎日の持ち物の準備や始末等、自分で行うことができることを少しずつ増やしていきましょう。

自分で行うことができることが自信となるように認めていき、進級を楽しみにできるようにしましょう。

5歳児 そう組

先日は「そう組音楽会」にご参加いただきありがとうございました。アンケートでは、「子どもたちの堂々とした姿を見られた」「子どもたちが自信をもってしていた」との感想をいただきました。そう組の子どもたちは、これまでたくさん積んできた遊びや行事での経験を経て、一回りも二回りも大きくなっているところです。

今月は、修了に向けた学級全体の活動を進めながらも、自分で選ぶ遊びも大切に「子供園楽しかった!」という思いをもって修了できるよう支えています。

<今月のねらい>

〇めあてに向かって取り組み、繰り返し挑戦してやり遂げる喜びを味わう。

〇生活や遊びに見通しをもち、自分たちで進めていく充実感を味わう。

〇就学への喜びや期待感をもち、進んで行動しようとする。

<家庭との連携>

3月1日で、修了式まで残り13日です。その中で、修了に向けた取り組みや、子どもたちのやりたい活動等、様々なことを予定しています。登園時刻に遅れないよう、また毎日元気に通えるようにしましょう。

ほしグループ 長時間保育

うさぎ組の子どもたちは、他学年のしている“忍者の引っ越し”という鬼遊びに入れてもらい一緒に走って遊びました。忍者の引っ越しはどの学年でも遊べるようになり、3学年で鬼ごっこを楽しむ姿も見られました。<ま組やそう組の子どもたちは、長縄跳びや中当てを楽しんでいます。「おたんじょうびがいい!」「郵便屋さんかいい!」と好きな跳び方を保育者に伝えて、歌に合わせて縄の返しています。友達が跳ぶ様子を見て「すごい!」と話したり、友達と同じ跳び方に挑戦したりすることもあります。その中で、そう組さんは他学年の幼児に合わせて縄を回す速さを「こうするといいよ。」とアドバイスをしたりし、思いやっけて接していました。

お部屋では、手袋の製作を楽しみました。手袋に顔の模様になるようにシールを貼ったり、手袋の周りに穴を空けたものに毛糸を自由に通したりして思い思いにつくりました。みんなの部屋は子どもたちのつくった素敵な手袋でいっぱいになりました。